

2025 年度事業計画総括

当学会は、定款第3条の学会の目的「放射線技術学に関する研究発表，知識の交換ならびに関連団体との連絡提携を図り，学術の進歩発展に寄与すること」を念頭に置き，新たな研究分野にチャレンジできる環境を整備することが必要なターニングポイントに差し掛かっている．そのためには，学会組織を見直し，新しいこれまでになかった魅力を生み出すことのできる体制に組織再編するための「事始めの年」としたい．具体的な目標は，学際的研究を推進するためにデータサイエンスを積極的に活用しながら，異なる領域との共同研究によって新しい研究分野を開拓して発信し続ける体制づくりを行いたいと考えている．また，若手研究者育成は当学会の急務でもあり，2024年度から「若手による若手の研究参画促進に関する検討班」を立ち上げ，若手研究者が活躍するために不足している条件を洗い出した結果を生かして，イノベティブな研究の促進につなげたいと考えている．

昨年度の第80回総会学術大会は，ほぼ対面開催へ回帰したと確信できる大会であった．学術大会はパシフィコ横浜会議センターにて4月11日～14日まで現地開催，オンデマンド配信は5月16日までの日程で実施した．参加登録者数は5,060名とコロナ禍からの回復を実感できる大会となった．International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT)は，91演題となり順調に推移した．今後も海外からの参加者の受け口として，さらに国内参加者の登竜門として発展することを望んでやまない．2025年度は，国際的な学術連携・交流事業がより一層活発となり相互国際交流が推進できることを期待している．これまでのアジア教育支援事業は，ラオス人民民主共和国を舞台に外部資金を獲得しつつ放射線技術学に関する教育支援活動を行う予定である．また，国内連携事業として2年前から始まった，本学会と日本医学放射線学会，日本放射線科専門医会・医会，日本診療放射線技師会との放射線診療4団体連絡協議会を継続・発展できるよう連携を深めていく計画である．国内のその他の関連学会ともこれまで以上に共同研究などを通じて連携を深めていきたいと考えている．

学会事業としては，eラーニングを用いた教育プログラムの充実と，各種セミナーについても可能な限りハイブリッド形式とし，参加者の利便性を確保して多くの会員等へ還元できるよう努力する．また，本学会の役職員並びに会員に対してはコンプライアンスや利益相反の意識の浸透を図り，公正な学会を目指して活動する．会員の皆さまの一層のご理解とご支援をお願いする次第である．

以下に，2025年度事業計画の総括を述べる．

1. 学術集会事業；公1

1) 学術大会の開催

(1) 総会学術大会の開催

第81回総会学術大会を2025年4月10日（木）～13日（日）の4日間，岩永 秀幸大会長のもと，日本ラジオロジー協会（JRC）の運営によりパシフィコ横浜会議センター他で行う．本大会は第84回日本医学放射線学会総会，第129回日本医学物理学会学術大会ならびに2025国際医用画像総合展と併催する．

なお，パシフィコ横浜会議センター他の現地開催とオンデマンド配信のハイブリッドにて開催とし，大会のWebサイトにて，開催前から事前情報の提供や，大会期間中のプログラムのライブ配信，大会終了後に5月15日までオンデマンド配信等を行う．

また，第82回総会学術大会について，林 秀隆大会長のもと，2026年4月の開催（パシフィコ横浜会議センター 他）に向け準備を進める．

(2) 秋季学術大会の開催

第53回秋季学術大会を2025年10月17日（金）～10月19日（日）の4日間，蝶野大樹大会長のもと，札幌コンベンションセンターにおいて開催する．例年通りJRCの協賛を得る．

(3) セミナー・研修会の開催

教育委員会が主催，専門部会ならびに地方支部が共催で，17のセミナー・研修会をのべ21回開催する．

(4) 専門部会プログラムの開催

7つの専門部会が各専門分野に特化した独自の企画で春秋の学術大会にジョイントして専門部会プログラムを開催し，トレンドな技術情報をタイムリーに発信する．

(5) 地方支部における学術大会，セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした地方支部独自の企画で、春もしくは秋に学術大会ならびにフォーラムやセミナーなどを開催する。また、地方支部と学術委員会、教育委員会、専門部会が協力してセミナー、研修会等を実施して地域における学術活動を活性化させる。

(6) 市民公開シンポジウム・市民公開講座等の開催

公益法人としての事業の一環であり、本学会の学術領域を社会に広報する目的で今年度は1回（京都市）開催する。

2. 刊行広報事業；公2

1) 学会誌関連

学会誌第 81 巻第 3 号～第 82 巻第 2 号の 12 冊を毎月 20 日に定期発刊する。その中で論文特集号（第 81 巻 11 号）も組み込み、電子ジャーナルの発行も行う。剽窃チェックシステムを導入し論文査読を効率化しつつ学術研究発表から論文化への推進を行い投稿論文の増加推進に努める。また、各専門部会と連携し最新の用語集を維持・公開する。

2) 英語論文誌関連

第 18 巻 1 号を 2025 年 3 月、第 18 巻 2 号を 2025 年 6 月、第 18 巻 3 号を 2025 年 9 月、第 18 巻 4 号を 2025 年 12 月に電子ジャーナルおよび冊子体を発刊する。第 81 回総会学術大会で、日本医学物理学会との合同企画ならびに土井賞、Most Citation Award、RPT 誌優秀査読者賞の表彰式ならびに土井賞の受賞者講演を開催する。

3) 出版活動

放射線医療技術学叢書出版に向けた準備をする。また、放射線技術学シリーズおよびスキル up シリーズを発刊するとともに既出版物の販売促進を図る。叢書と教科書シリーズの電子化を推進する。

4) 地方支部雑誌の発行

各地方支部において支部雑誌を 1 回～3 回発行する。

5) 専門部会誌の発行

各専門部会において専門部会誌を電子ジャーナルで 2 回発行する。

6) 広報活動

学会事業ならびに放射線技術学に関係する専門分野の研究動向などを、市民公開シンポジウムや市民公開講座などの開催、ホームページへの掲載ならびにメールマガジンの配信を通じて一般市民含めて学会内外に広報する。

3. 研究調査事業；公3

学術研究班（9 班）による学術研究を行う。動画コンテンツを推進して e-ラーニングの充実ならびに定着化を図る。また、学術大会において専門部会講座入門編と専門部会講座専門編ならびに第 81 回総会学術大会ならびに第 53 回秋季学術大会において教育的講座を開催する。アジア教育支援事業については、アジア諸国に向けた診療放射線技師向けの教育デジタルコンテンツの開発・作成を行い、順次配信を行う。

4. 研究奨励事業；公4

規程に基づき、三賞、学術業績賞、研究奨励賞等の選考・推薦・表彰ならびに関係省庁、関連団体被表彰者の推薦を行う。また、地方支部において表彰もしくは研究奨励を目的に助成を行う。

5. 連携交流事業；公5

1) 国内

(1) 関連学協会および関連団体と積極的な交流を図るとともに共同による企画などの立案を行う。放射線技術に関する関係法令に関して関係省庁や放射線審議会等から情報を収集し、整理して会員等に情報提供する。関係省庁、日本画像医療システム工業会（JIRA）および関連学協会と協力して IEC と整合をもった JIS 化作業を行い、その普及活動を積極的に行う。医療情報の標準化にかかわる規格・コード・ガイドラインなどについて関連団体と協議、策定および普及に努める。放射線防護に関しては医療被ばく研究情報ネットワーク（J-RIME）に参画し、関連学会等と連携して診断参考レベルの検討、情報提供ならびに普及に努める。医療安全についても関連団体と連携して具体的に取り組んでいくとともに会員等への情報発信を行う。

(2) JRC 理事会に役員を派遣し、学術大会の開催企画に参画する。

- (3) 関係省庁, 教育機関, 関連学協会との一層の連携を図っていく.
- (4) 日本診療放射線技師会と共催にて第 19 回 JART-JSRT 合同市民公開講座を開催する.

2) 海外

本学会と学問領域が近い学術団体と学術交流の締結を推進する. また, 学術協定を締結している中華医学会影像技術学会, 大韓放射線科学会, タイ医学物理学会, 中華民国醫事放射學會との学術交流を積極的に推進して, 両学会の研究発表を促進する. また, 短期留学生の海外派遣, 国際研究集会への海外派遣等の助成を実施する.